

平成 26 年度地域懇談会人口減少に関する市民からの意見・提言等

月 日	場 所	主 な 意 見
9 月 30 日	瑞穂コミセン	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少により、この街の経済がどうなったのかということの分析ががされていなかったため、説明を聞いてもピンとこない感じがした。 ・人口減少により、この 10 年間で 18 億円のお金が地域で回らなくなったことであり、経済規模が縮小し、負のスパイタルになっている。 ・移住・定住は促進するしかないが、市の取組みがぼやけており、インセンティブが働いていない。 ・若い人が来るためにはどうするか、職を持っている人がくるためにはどうするか。富良野では、アウトドア関連に力を入れるべきである。 ・交流人口を増やすためには、富良野に来てもらうための取組みとして、企業や団体の研修やコンベンション等の誘致については、まったく手付かずであり、具体的に提案していくべきである。 ・今後の高齢社会に向けては、健康づくりが必要であり、国の成長戦略にのっかり、「健康」「観光」「環境」の 3 K をキーワードにすべきである。 ・(株)タニタでは、1 食 500kcal の昼食を提供しており、富良野にも興味を抱いている。うまく、加工できれば再生産できる。 ・アパートでは、若い人や単身世帯など、出入りが激しく、町内会にも加入していないため、市は、加入促進に向けて、もう少し強くアナンスして取組みを強化してほしい。 ・富良野の観光は「何があるんだ！」という感じを持っている。 ・人口減少問題は、一般住民が考えてもなかなか発想が出るものではない。 ・市役所の職員は、転勤がなく定年まで働けるため、一番固い。市職員を一番頼りにしているため、市はどのような構想を持っているのか。
10 月 1 日	栄町コミセン	<ul style="list-style-type: none"> ・富良野には職がないために、子どもがいても富良野から出て行ってしまいう悪循環になっている。 ・観光をいくらよくしても人口は増えないため、企業誘致しかないと思うが、富良野の立地条件や交通の便からは厳しいのかなという気がする。 ・若い人がいても、富良野で就職することは大変である。 ・担い手を確保して、耕作放棄地に就農できるようにできないか。就農者も地域が迎えてくれるような人柄の人でないとだめだが。 ・富良野は知名度があり、身の丈にあった財政運営をして成功した自治体であると思うが、今、蒔いた種が 10 年後、20 年後に成長するような施策に取り組んで欲しい。 ・人口が減らない施策としては、企業誘致が難しく、ボランティアを活用したまちづくりはどうなのか？いずれにしても身の丈にあった施策を進めてほしい。 ・どの地域に住んでいても同じような恩恵を受ける地域コミュニティの再編を行政の側から支援してほしい。 ・人口減少対策には、他の自治体よりも一歩先んじた取組みが必要であり、農地法の特区をつくってはどうか。 ・富良野のアパートの家賃は他の町に比べ、1 万円ほど高いと聞くが、もう少し安くなると富良野に住んでもらえなくなる。
10 月 6 日	末広コミセン	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少問題については、私自身考えられるような問題ではなく、これは、日本全体の問題であり、その対策というものはなかなか出てこない。 ・富良野の人口は何で減ったのかの説明がない。また、今後、今の人口のままでもいいのか。また、富良野の人口を今よりも増やすべきなのか、どのように市は考えているのか。

		<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ整備は拡大させず、コンパクトなまちづくりを進めることは大切であり、人口が少なくとも高品位な暮らしができて、富良野で楽しく過ごしてもらうことが必要。 ・年寄りが増えることは当然なことであり、そんなに心配する必要はない。大切なことは中身で勝負することである。 ・富良野は人口減少が進んでいるが、他のまちに比べるとはるかによい街だと思う。 ・スキー仲間からは、他のまちに比べ、「コミュニケーションが取りやすい街だよ」と言われたことがある。 ・ファミリー・サポート・センター等の子育て支援施策は、いい取り組みだと思うが、必ず、トラブルが生じるため、保険には加入しておいたほうがよい。
10月8日	西地区コミセン	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少対策を考える上で、市職員はどのような意識を持っているのか。転入者には、懇切丁寧に説明するなどの心がけが必要である。また、富良野に入ってきたときに、記念品を渡すようなことをしてはどうか。 ・市の政策のなかで、可燃物を燃やす電力の問題をどのように捉えているのか。 ・過去には、富良野に自衛隊の駐屯地が来る話や製糖工場も来る話があったが、他の町に持っていかれた。トヨタの耐寒コースも士別に持っていかれた。今、全国的に刑務所が足りないという話も聞く。 ・今冬、ぶどうが丘町内会でペンションの車庫が壊れた。空き家を放置しておくとは崩壊の危険性もあり、空き家対策を講じる必要がある。 ・富良野の人口減少の一番の特徴は農業人口が減ったことであり、農業の法人化を積極的に進めるべきと考える。
10月14日	東春コミセン	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援政策としてのファミリー・サポート・センター事業については、空き店舗を行政が借上げ、子育て支援センターのサテライトとして、そこで、提供会員が依頼会員の子どもを預かるような仕組みを整えるべきと考える。 ・若い人が富良野で住めるように、食品関係の企業を誘致してはどうか。 ・新しくできる農業の担い手センターには、林業の担い手育成もしてはどうか。
10月20日	南コミセン	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少問題を考えることは、とても大切なことであり、データを分析して手法論をまとめることが大切である。 ・日本の人口の半分以上が高齢者になることは恐ろしいことである。 ・世界の人口は増えているのに、なぜ、日本の人口は減少していくのか。 ・富良野には、アウトドアをやる若者が来て、ここで結婚するが、生活するための給与でないために、出て行くケースもある。 ・富良野には、スキー場もあり、北海道の中心なのだから、体育大学を誘致しては？
10月22日	麻町児童センター	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな企業誘致よりは、昔からある富良野の古い企業にも目配りし、守って欲しい。 ・若者が結婚するために、集まり交流できるような場をつくってほしい。 ・人口減少や高齢化により、連合町内会協議会や老人クラブの運営が厳しくなるため、事務局は行政で担って欲しい。 ・すべての本質は自己責任から入るべきである。出会いの場をつくってもらおうような後押しがなければ結婚できないのは、自分に魅力がないからだ。
10月27日	朝日会館	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少対策には、これといった妙案はないが、若い人に定住してもらうには、税金を安くするとか、教育や保育費を軽減するとか、中心街に住んでもらうような取り組みが必要。

		<ul style="list-style-type: none"> ・市街地もドーナツ化現象であるため、インフラ整備が整っている中心市街地の人口減少により、一つの町内会に8～9件しかないために、町内会の統合は行政から声をかけていただきたい。 ・中心部に人を集めるコンパクトなまちをつくるべき。 ・隣町では、子どもが生まれたり家を建てたりするのに援助があるので、そのような補助金制度をやってほしい。
10月28日	鳥沼会館	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを多く産まないのは、経済的な理由があると思われる。 ・ここでは、地域全体で質の高い教育をしてもらっていると思う。 ・教員の確保など、行政はコストのかかるところにコストをかけてほしい。 ・農家の労働力の確保をしていただき、母親が子育てに専念できる仕組みをつくるべき ・民間企業の経営者には、子育て社員が育児休暇取得に向けた意識づけをすべきである。 ・子どもには、保育料や学習塾などお金がかかる。 ・農村部に光ファイバーを整備し、企業のシステム開発部門を誘致してはどうか。 ・大学生への市独自の奨学金制度で、Uターン者への地方税減免をしては。 ・18歳を過ぎて国の子寮の子が、富良野に回帰してもらえるように。 ・「農業をしても暮らしていける」イメージアップを図っては。成功事例を見せて。 ・教員家族も、農村部の教員住宅に住んで、地域に馴染んでほしい。 ・いかに、子どもを産むかよりも、いかに、今いる子どもたちを育てるかということが大事。 ・親がやる気にならないと、子どもたちは帰ってこない。 ・夏場雇用しているヘルパーをいかに冬場も働いてもらうか ・現役を引退した60歳以上の高齢者の雇用をいかに確保すべきか。 ・ファミサポ事業の会員同士の信頼関係をどのように築くのか。
11月10日	布部会館	<ul style="list-style-type: none"> ・布部には、JR駅もバス停もあり交通の便がよいため、布部に住みたいという人はいるはずである。 ・富良野に独身者はどれくらいいるのか？ 農業者以外の未婚者の手立ては？ 市職員の未婚者数は？ ・子どもを育てやすい環境をつくるために、砂利道は舗装してほしい。自転車に通学もできない。 ・富良野は災害の少ないまちであるため、自然エネルギーを活用したまちづくりを。 ・農業大学や体育大学等を誘致し、高校卒業後の学びの場を若者に提供すべきでは。 ・ケンタッキーもミスタードーナツもなくなったが、市としてファミリーレストランを誘致しないのか？ ・雨や雪の日に子どもが屋内で遊べる場が必要である。旭川のカムイの森のように。
11月20日	麓郷集落センター	<ul style="list-style-type: none"> ・国から様々な支援を受けてもコミュニティのない集落は崩壊するため、地域内でコミュニティづくりが人口減少対策ではとても大切。 ・地域活動が盛んな地域は、居住している一人ひとりの顔が見えるため、何かあったときの手助けが受けやすくなる。 ・新規就農の受入に当たっては、行政と農協で連携がとれていないため、市民は揺さぶられてしまう。 ・富良野市は、本気で新規就農者を受け入れたのか疑問に感じるがあった。 ・麓郷街道を北の国からのメロディーロードにしてはどうか。 ・麓郷地域のあるお年よりの家で、とてもおいしいも団子やかぼちゃ団子を食べさせてもらったので、そういう物を6次産業化できないだろうか。
11月21日	北の峰コミセン	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少対策には、家族が円満で子育て環境がうまくいっている夫婦関係をつくるべき。

		<ul style="list-style-type: none"> ・結婚、出産は個々の問題であり一自治体だけの論議では進めないのではないか。 ・就農研修生に対する扱いは、農家個々によりバラツキがあり、無賃労働者として扱っているのであれば人は育たない。 ・人口減少問題は、コミュニティ関係の希薄化など社会構造的なことが大きな課題。 ・企業立地に向かうことよりは、富良野の産業である農業や観光を守る取り組みをすべき。 ・国からの手厚い施策や地方に対する補助金を市長会を通じて要望すべき。 ・空き家に解体費用も出せない市民の対応を早急にすべき。
11月26日	山部福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・山部に生まれ、山部に育ち、山部は住みやすいところだと思う。若い人が働く場所を整備すべきと考える。 ・たくさんの人を雇用するような企業誘致は難しいと思われるため、6次産業化を発展させることが近道と思われる。 ・富良野の花観光はラベンダーぐらいしかないため、秋の紅葉をたのしめるように、広葉樹を植樹し、見せ所をつくってはどうか。 ・河川敷のゴルフ場周辺に、「人間の顔に見える岩」があり、世界に一つしかない貴重なものであるため、意匠登録すべき。 ・栽培方法を一変し、できるだけ高齢者を就農させる仕組みを考えるべき。 ・マグネシウム、カルシウム、塩分で発電もできる。
11月27日	東山支所	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の価値は物や金ではないため、住民同士のつながりを大切にすべきである。 ・仕組みよりも人材育成を。 ・人口減をどのように解決すればいいのか見当もつかないが、新規就農者の受入を。 ・出会いの場に行くにしても、繁忙期は時間がとれず、若い人は実際に動けないのが実情だ。 ・昔に比べ、最近の女性は仕事を持ち、趣味を持ち、お金を稼げるため、子どもの必要性をどのように感じているのだろうか。 ・この地域がどの方向に向かっていくのか、地域としてまとまった目標が見えてこない。 ・農村部の労働力をどう確保していくかが大切。